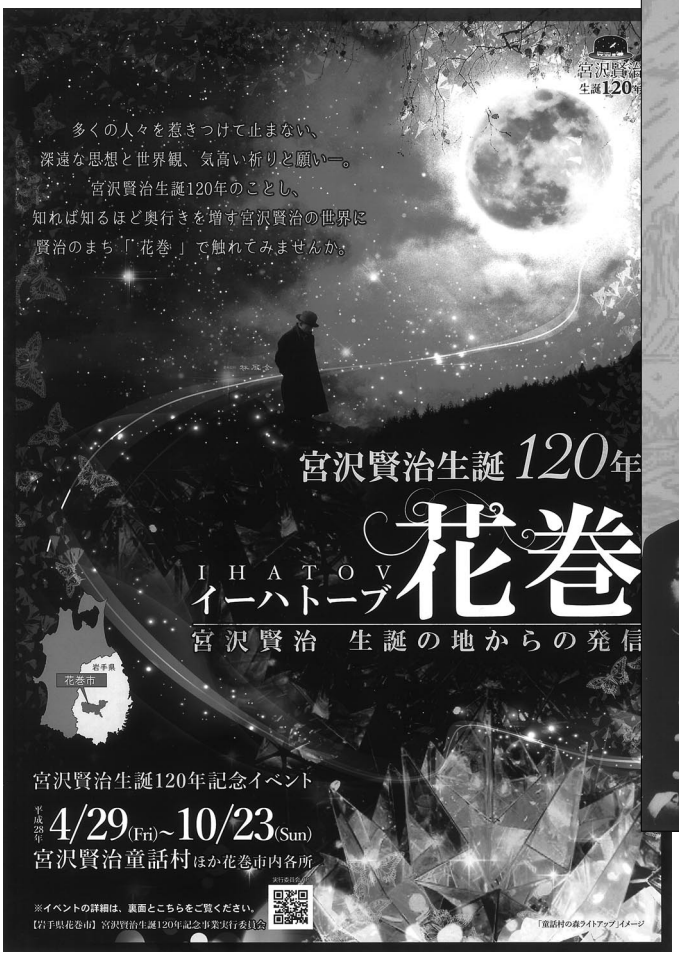
第115号　　平成28年８月27日発行（1）

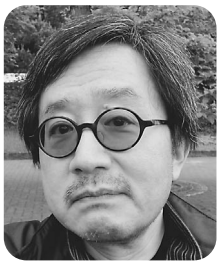
宮沢賢治記念館通信

発行　〒025-0011 岩手県花巻市矢沢1－1－36　宮沢賢治記念館　☎(0198) 31－2319　FAX (0198) 31－2320



展示リニューアルにおける英訳について

富　山　英　俊



私は今回、展示リニューアルに、各種解説文の英訳作業のまとめ役のような形で参加しました。「まとめ役のような」というのは、ゼロから自分で訳した部分もあるが、全部を一人でやったわけでなく、すでに進んでいた作業に手を加えた部分も多く、だが現状の英訳全体について監修をしたとは言える、ほどの意味です。私は大学の文学部英文学科でアメリカ詩を主に教えていますが、自分の手がけた英文の適切性について、最後は英語を母語とする人に確認してもらう必要はあり、今回も大学の同僚の英語話者に点検をお願いしました（これは通常行われる手順です）。

じつは記念館展示については以前に、区分の大枠を示す案内表示の英語表記を改訂する作業に加わりました。国際化の時代に、賢治を諸外国の人々に発信する際に、展示において外国語への対応が必要なことは言うまでもありません。今回のリニューアルでは、展示区分だけでなく、各パネルで、標題については英訳がそのすぐ下に組み入

れられました。リニューアルでは賢治の多面性を「科学」「芸術」「宗教」「宇宙」「農」さらに「宮沢賢治のフィールド」の範疇に大別し、様々な人物・事象・情景などの写真や絵、また賢治の原稿・絵画・楽譜などを示しかつ解説するパネル群によって展示しています。英語圏からの来館者で日本語解説は読めない方々が、パネル群を順路に従って見ながら、標題の英訳を読むだけで、内容をある程度は把握あるいは推測できるように配慮したつもりです。

こうして、各パネルでは標題だけに英訳が記されていますが、その脇にはＱＲコードが貼りつけてあり、そこから解説の英訳を呼び出せるシステムが導入されています。つまり来館者がスマートフォンなどのＱＲコード読み取りソフトを起動し、ソフトが起動するカメラ機能により来館者がコードを撮影すれば、その情報はネット上のサーバに送られ、画面上に当該パネル画像とその解説の外国語訳が表示される、というシステムです。その翻訳は、英語だけでなく、簡体字と繁体字の中国語、韓国語が用意されていますが、私はその英語版を担当しました（もっともこれはすでに作業が進行中のものに手を入れましたが、やや時間に追われる感はありました)。

さらに、記念館パンフレットも今回作り直されました。そこには、来館者へに向けて賢治の全体像の、また先述の５分野の内容の簡潔な紹介が記されていますが、それらの英訳も、パンフレット自体に載せられています。その英訳も、私が担当しました。

さて、パネルの標題の英訳については、その場でそれだけを読んで理解できるように配慮しました。たとえば「宇宙」セクションで賢治の星座への関心を扱うパネル群では、星座を紹介し、それが登場する賢治作品を挙げていきますが、後者のパネルの標題は作品名であり、たとえばアンドロメダとの関連での「詩「原体剣舞連」」となります。これを直訳しても連関が伝わらないので、英語は "Andromeda in "Haratai Sword Dancing Troupe"（poem）" としました。

「芸術」セクションで、賢治における推敲･改作の問題を取り上げる部分では(「賢治の文学創造の特質」パネルで概説)、「風の又三郎」がいくつかの別作品を組み込んだ経過をも展示しています。でもパネル標題となったそれらの作品名を直訳しても、繋がりは見えません。ですから、標題が「童話「種山ヶ原」」であるパネルは、"A story incorporated into "Matasaburo of the Wind"" という英題にしました。

作品の原稿を見せるパネルが並ぶ部分については、詩や童話の表題をそのまま英訳した場合もあります。それらを読むだけでも賢治作品の多彩さを感じ取れるのでは、と期待しています。他方、「塵点の劫をし過ぎて」の短歌は "A tanka poem：glad to have met the Lotus Sutra" 、絶筆の二首は "Last two tanka poems： farewell to life, in ripeness of belief"、などと、内容を伝える英語標題にした場合もあります。「詩法メモ」パネルは、「詩は裸身にて……」を、"Poetry nakedly explores the regions no theory could reach... "（note on poetics）" と英訳して標題にしました。

詩作品が賢治の関心を示す実例として引かれる場合には、表題の訳でなく内容説明をパネル名としました。たとえば農業実践への関わりを示すパネル「詩「副業」」は "A poem about rabbit farming" 、「詩「あすこの田はねえ」」は "A poem encouraging a young farmer" 、「詩「それでは計算いたしませう」」は "A poem about fertilizer planning" と訳しました。

同様に、宗教関係で、直訳の難しいものは内容説明のパネル名としました。「法華堂建立勧進文」は "An appeal to help build a Lotus Sutra temple" 、「摂折御文僧俗御判」は "Ways to propagate the Lotus Sutra：excerpted by Miyazawa" です。

他方、ＱＲコード経由でアクセスできる解説英訳の方では、一部のパネルについては扱われる詩や短歌の一節の英訳を組み入れました（じつは私は英語話者の同僚との共同作業で詩翻訳の試みもしています)。たとえば、すでに引いたパネル「詩「原体剣舞連」」の解説英訳では、日本語解説にはないアンドロメダが登場する該当６行を挿入してあります。

以上、パネルの標題の英訳にせよ、ＱＲコード経由の解説英訳にせよ、英語圏からの来館者のうちで特別の深い興味はなかった人々にも、賢治への関心を惹き起こす一助になるならば、と望んでいる次第です。

読者の広場　私の宮沢賢治

七時雨山

東京都三鷹市　竹田 日出夫

「天・地・人一體」。宮沢賢治の存在を考えるとき、私はいつもこの言葉を連想します。花巻市の観光大使に任命されていたHさんの誘いで、十月末の八幡平を訪ねたことがあります。そろそろ秋の観光シーズンも終わりに近付いていました。八幡平の中でも朽葉を踏んで山毛欅(ブナ)林を巡ったことと、夕暮れる山麓の休憩小屋のストーブに手をかざし温めながら七時雨山を眺めたことは特に忘れられません。『春と修羅』(1924年・大正13年）中の「一本木野」という詩から、いつの日か七時雨山を仰ぎみたいと思っていましたので…。

すみわたる海蒼の天と
きよめられるひとのねがひ
からまつはふたたびわかやいで萌え
透明な風のひばり
七時雨山の青い起伏は
また心象のなかにも起伏し

また、賢治のブラック・ユーモアが縦横に躍動する痛快な詩「国立公園候補地に関する意見」(作品337番）でも終わり四行に七時雨山が登場します。

さあパン（注）をおあがりなさい
向ふの山は七時雨山
陶器に描いた藍の繪で
あいつがつまり背景ですな

（注　白っぽい厚い杉苔の表面がかさかさに乾いているのをパンに譬えた）

八幡平が国立公園に追加指定（十和田八幡平国立公園として）されたのは1956年（昭和31年）7月のことでした。賢治の時代にはまだ七時雨山の辺りは時に鳴動する鬼気迫る火山帯の荒蕪地で、賢治は「貞亨四年のちひさな噴火から／およそ二百三十五年のあひだに／空気のなかの酸素や炭素瓦斯／これら清冽な試薬によつて／どれくらゐの風化が行はれ／どんな植物が生えたか」(『溶岩流』）と記しています。

賢治が慣れ親しんだ八幡平を私は１世紀後に訪れたことになります。あのとき眼前の七時雨山を私も詩にしていましたので以下引用させていただきます。

休憩小屋の
薪ストーブで
手を温めながら眼前の
七時雨山を
ぼんやり眺めていると
突然
渡り鳥のように
雲のあわいから
鳥人が降ってきた
ハググライダーを背負い
眼の前の峠の道を
一時間かけて登り
五分で降りたった　と
だが　時には滑空七時間も…
こともなげに
彼は言った
晩秋の八幡平の
ブナの林も渓も
冬に入ろうとしていた
うす雲を曳き
胸を廣げていた七時雨山は
ほんとうに夢のようだった

かの鳥人も「天・地・人一體」の軌跡を描く人、賢治の末裔のように私は今も感じております。

風と雲とまるめろ

東京都中央区　谷口 秀子

私が故郷花巻で一番好きなところは、桜町の「雨ニモマケズ」(高村光太郎揮毫）の宮沢賢治先生の詩碑のある場所です。そこは羅須地人協会のあった場所で、北上高地、北上川、下ノ畑を眺め

られる広場で、少し高くなっています。

宮沢賢治先生は４年４ヵ月の農学校の教師生活を退職された後、音楽を奏でたり農業指導をしたところです。そこの広場では毎年９月21日に「賢治祭」が催され、昭和11年の詩碑建立から一度も休んだことがないということです。今年は賢治生誕120年で、にぎわうことでしょう。

くしくも私が赤ん坊の何か月間は同じ花巻の空気を吸っていたのかなあと思うと不思議な気がします。イーハトーブの風に吹かれ、雲を見、北上高地から昇る月を眺め、奥羽山脈に沈む太陽、遠くに望む岩手山や早池峰山、北上川のイギリス海岸での川遊び、朝日橋から天の川を見上げたり、思いっきり花巻弁をしゃべったりして少女時代を過ごしました。

そして、10回忌の「賢治祭」の時、私は当時９歳でしたが母･照井登久子(1909,3,15～1983,4,1)の指導のもとに童話「みじかい木ペン」の朗読をしたことは忘れられない思い出です。はからずも父･照井謹二郎（1906,10,26～2002,4,29）は稗貫農学校で宮沢賢治先生に１年４ヵ月教えをいただき、生涯変わることなく先生を尊敬していた姿は、子どもの私にとっても忘れることができません。

また、昭和22年、当時花巻の太田に住んでいらした高村光太郎先生の命名によってできた「花巻賢治子供の会」は、父が代表、母の童話の脚色・演出で数々の童話劇に出演したことも、つい昨日のことのように思い出されます。

現在私は、東京の隅田川の勝どき橋の近くに住んでいますが、近くの月島の「ＣＡＦＥ・虔十・ＣＲＡＦＴ」（虔十公園林の主人公の名）で、「べんべろの会」の有志、また、花巻弁で賢治作品の朗読をしたいという人々と共に、力不足ですが、心をこめて自然体で朗読をしております。

イーハトーブの風をもらいに時々花巻に帰ったり、宮沢賢治先生の作品のゆかりの地を訪ねたり、友人たち、また、かつてお会いしたことのある宮沢先生の母上様の美しい花巻弁、弟の清六氏、父や叔母、在郷のおじいさん、おばあさんの姿や花巻弁を思い浮かべながら、読み、語ることは身のひきしまる思いです。

宮沢賢治先生の願われた「農民芸術概論綱要」の－世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない－という言葉、ほんとうに世界の平和を心から願います。

「鹿踊りのはじまり」に想う

北海道室蘭市　田村　恵

今年、はじめて栃の木の花を見た。

故郷・盛岡市に住んでいたころは、城跡の下にある亀ヶ池の周辺に、九月の中旬ともなると大きな実が落ち、よく拾ったものだ。

「鹿踊りのはじまり」の中に、嘉十が鹿に食べさせようと、粟や栃の実の団子をうめばちそうのもとに置いてくる場面がある。それは、嘉十が自分と鹿との区別を忘れ、一緒に踊りたいと思うきっかけとなった。

私の場合、鹿に対して良い印象がない。車の運転中、群れて飛び出して来た鹿たちに、衝突されそうになったこと数回。いつの間にか鹿を「害獣」と思うようになった。

しかし、改めて考えれば鹿に罪はない。自然を操作し破壊している私達こそ、自然を脅かす「害獣」だ。そして、日々、そのことを忘れている。

春に開花した栃の木の花は、小さな実をつけているだろう。忘れていた心を取り戻すためにも、私はまた、あの栃の木を訪ねたいと思っている。

「賢治先生に会いに」

名古屋市　田中 雄三

初めて花巻を訪れたのは、もう26～７年前になります。それまでにも賢治先生の作品は大好きでしたけれど、宮沢賢治記念館に入ったとたんに賢治先生がとても身近に感じられて、時々花巻に行かないと禁断症状がおきるくらいになりました。イギリス海岸で夕暮れ時を過ごしたり、雨の日に「雨ニモマケズ碑」の前で賢治先生とおしゃべりしたり、詩「小岩井農場」を賢治先生が作られた５月21日に農場から岩手山を眺めてみたり、生誕100年のイベントに夜中まで参加したり、羅須地人協会の二階に寝転がってみたり、思いでは尽きません。賢治先生に教わったこと「今住んでいる場所をユートピアにしなさい」は僕の心にいつも刻んであります。また会いに行きますね、賢治先生！

来館者の声

記帳ノートから

No. 347～353

初めてきました。「宮沢賢治」は小さいころに何冊か絵本を読んだことがあるので知っていたけれど、こんなに沢山の物語を書いていたのは知りませんでした。今日はいろいろな発見だったり、「宮沢賢治」について知ることができ勉強になりました。

かねてから憧れであった宮沢賢治の世界に浸ろうと、はるばる富山から車で９時間ほどかけて来ました。ここの記念館やイーハトーブ館、その他賢治ゆかりの場所へ行って、深く探索しようと思っています。展示物は豊富で貴重なものばかりです。感動しています。

日本語を勉強して、もう二年間。最近、文学作品を読み始めました。それは宮沢賢治さんの「銀河鉄道の夜」でした。冬休みで、東北地方に旅行に来ました。中国の故郷と似ていると思います。みんな親切で元気よく声をかけました。「花巻」という単語は、中国語では食べ物の名前です。饅頭みたいなものです。おいしそうな町ですね、これからも宮沢さんの作品をもっと読みたいです。

岐阜県から来ました。初めて来たのにとても落ち着きます。賢治の理想郷「イーハトーヴ」がどんなところか、ほんの少しわかった気がします。作品にはあまりくわしくありませんが、「やまなし」を読んで、自然の厳しさ、食物連鎖など深く考えることがありました。賢治の作品は賢治の生き方そのものです。

小さいころから憧れていた賢治さんの母校である岩手大学農学部に無事入学することができました。少し賢治さんに近づけたと思っています。これから先、今の自分に満足することなく努力し続け、賢治さんのように人に尽くすことのできる偉大な人になれるよう頑張ります。賢治さんは自分を導いてくれた人で、一番尊敬しています。

大好きな宮沢賢治記念館、三度目です。初めは独身の時、二度目は子どもたちが小学生の時、そして今、六十歳を目前にし、市街地を見ながらとても感慨深い気持ちです。成人して社会人になった二人の息子も一緒にこれてうれしい気持ちで一杯です。次は孫を連れてこれたらいいですね。

賢治に会いに来ました。ここに来ると賢治の内宇宙に囲まれるようです。きのう宿で「銀河鉄道の夜」を読み、イギリス海岸を見てから来ました。「銀河鉄道の夜の原稿の特別展示」は見応えがありました。賢治が大切に大切に創りつづけた未来の物語なのだと思いました。賢治の魂に触れるようです。

ギャラリートーク

「雨ニモマケズ」展の開催にあたり、８月21日(日)に、宮沢賢治の弟、清六さんの孫宮澤和樹さんによるギャラリートークを行いました。お話の中では、「11・３」という数字が「雨ニモマケズ・・・」の最初に書かれていたために当初の題名は「11月３日」だったことや、「野原ノ松ノ・・・」からの後半の部分が大切であること、中でも「行ッテ」という言葉が大事であること、高村光太郎が揮毫した詩碑への追刻の話など祖父清六さんから聞いた話をお聞きすることができました。

賢治の世界セミナー

花巻市内の小中学生（高校生）に、宮沢賢治の作品や精神、生き方について学ぶ出前講座を実施しています。今年は、宮沢賢治生誕120年でもあり昨年より多数の講座依頼があり、中学校での講座も増え、21校で22講座を実施の予定です。

◆6月20日（月）岩手県立花巻農業高等学校　「精神歌について」　講師　大島丈志 氏

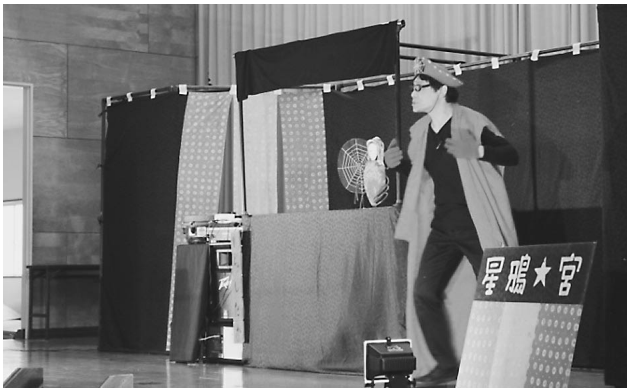
◆6月25日（土）花巻市立石鳥谷中学校　「鹿踊りのはじまり」　講師　ざしきぼっこの会

◆6月29日（水）花巻市立笹間第二小学校　「賢治と白菜」　講師　舘野廣幸 氏

◆7月1日（金）花巻市立湯口中学校　「楢ノ木大学士の野宿　野宿第三夜」　講師　牛崎敏哉 氏

◆7月11日(月) 花巻市立亀ヶ森小学校 「グスコーブドリの伝記」　講師　星野祐美子・大金雅子 氏

◆7月15日(金) 花巻市立湯本小学校 「ほらぐま学校を卒業した三人」　講師　星鴉　宮 氏



■賢治の世界ワークショップ

岩手山焼走りを訪ねて

6月14日(火)、賢治がこよなく愛し数十回も登山したといわれる岩手山の「鎔岩流」の詩碑を見学し、焼走りを散策しました。参加者12名は、ごつごつした散策路を無事に通り抜け、岩手山焼走り交流プラザで一関市東山町「石と賢治のミュージアム」ボランティアガイドの原子内貢氏から「楢ノ木大学士の野宿」の野宿第二夜の石たちの会話をもとに楽しく石についての講話をしていただきました。

ワークショップに参加した方々からは、「溶岩の道を歩いたのが印象的でした。確かに鳥一羽も飛んでいなかった。」「石についてのお話がよかった。身近にある石の名前を知りたいと思った。」「久々に高校の地学を思い出しました。その当時はあまり興味無く何でこんなもの学ぶんだと思っていたが、今日の溶岩、石、わかりやすくお話しされてちょっとわかりました。以前来たときは、散策路がなく眺めて帰っただけだったが、周りを見ながら歩けてよかった。」という感想を頂戴しました。

今後の開催事業のお知らせ

宮沢賢治記念館特別展

「雨ニモマケズ」展

国内はもちろん、世界でも多様な広がりをみせている「雨ニモマケズ」。

賢治生誕120年を機に、「雨ニモマケズ」が書かれた賢治自筆の手帳と、高村光太郎が揮毫した「雨ニモマケズ」詩碑の原文を展示いたしました。

いずれの資料も宮沢賢治記念館では初公開でした。

会期

前期　8月20日(土)～8月28日(日)
後期　8月30日(火)～9月11日(日)

＊前期は「雨ニモマケズ手帳」「雨ニモマケズ詩碑原文」を公開し、後期は「雨ニモマケズ手帳」の複製、詩碑原文の拓本を展示いたします。

「賢治の青春」展

宮沢賢治が盛岡高等農林学校（現：岩手大学農学部）在学中に、学友の保阪嘉内、小菅健吉、河本義行らとともに創刊した「アザリア」。

今回の特別展では「アザリア」全6巻と、同人の保阪嘉内に宛てた書簡数通を紹介します。賢治の書簡がみられる機会も限られますが、「アザリア」全6巻が揃って見られるのは当館の特別展だけです。多感で表現性に溢れた賢治の青春時代を、当時の資料から感じていただければと思います。

＊ギャラリートーク及び展示解説
講師　栗原 敦 氏　及び当館学芸員2名
9月21日(水)　午前11時～12時

会期　9月17日(土)～9月25日(日)

「賢治と石」展

「石っこ賢さん」と呼ばれた宮沢賢治の鉱物、地学の面から賢治を紐解いていきます。

会期
平成28年10月1日(土)～平成29年3月31日(金)

「ナイトミュージアム」

童話村のライトアップにあわせて、当館では「賢治童話の幻燈会」を開催中です。皆様の御来館をお待ちしております。

会期　平成28年
9月17日(土)～9月25日(日)　18:00～19:00
10月8日(土)～10月10日(月)　18:00～19:00
10月21日(金)～10月23日(日)　18:00～19:00

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

「賢治ゆかりのバラ」がお待ちしています

昨年、花巻バラ会の方々から、当館の前庭花壇に植栽して頂きました賢治ゆかりのバラ「グルス・アン・テプリッツ（和名日光）」が開花しております。深い赤色のバラの花が皆さんの来館をお待ちしています。

編集後記

今年は、宮沢賢治生誕120年を記念して花巻では様々な記念事業が企画されています。当館では、平成21年度まで10年間、宮沢賢治イーハトーブ館で実施しておりました賢治に学ぶ出前講座を「賢治の世界セミナー」として継承しています。本年度から担当者が変わり、市内の小・中・高等学校21校で22回の講座を開催いたします。ある講座では、授業参観日に合わせて開催し、たくさんの保護者の参観のもと「鹿踊りのはじまり」の朗読にはじまり、岩手県立花巻農業高等学校鹿踊り部の演舞、会場校全校生徒で精神歌の合唱を行い好評を得ました。県内外の素晴らしい講師の皆様と初めてお会いしながら、私自身を含めて賢治について幅広く学んでいきたいと思います。

また、10月には、いわて国体等も開催されますので、宮沢賢治とその作品に思いを寄せる多くの皆様のご来館をお待ちしています。